

第4章 文の推敲

都 14 – 33 大原源悠
システム最適化研究室

December 8, 2017

この章で学ぶこと

文を書くにあたって,

- どのような文が誤解されやすいか
 - どう書き直せば誤解されなくなるか
- という点について学ぶ

誤解される文とは (1/2)

リスと私

私はカメラを抱えたまま寄ってきたリスにクルミをあげた。

この文章はどのような情景を描いているだろうか

誤解される文章とは (2/2)

2つの読み方ができる

- カメラを抱えているのは私
 - リスが寄ってきたので、私はカメラを抱えたままでクルミをあげた
- カメラを抱えていたのはリス
 - 高度な知能を持ったリスが寄ってきたので、私はクルミをあげた

このような誤解を受けないように注意する点がある

短くする

悪い例

私はカメラを抱えたまま寄ってきたリスにクルミをあげた。

悪い点：複数の動詞が一つの文で使われている

改善例 1：読点を打つ

私はカメラを抱えたまま、寄ってきたリスにクルミをあげた。

改善例 2：語順を変える

寄ってきたリスに、私はカメラを抱えたままクルミをあげた。

「の」の数に注意 (1/2)

悪い例：「の」が多すぎる

反応の速度の測定の結果のデータの処理のためのプログラムが必要です。

悪い点：「の」が多すぎて読みにくい

改善例：「の」を減らす

反応速度の測定結果を処理するプログラムが必要です。

「の」の数に注意 (2/2)

「の」を減らす方法

- 単純に「の」を減らす
 - 「反応の速度」→「反応速度」
- 冗長な部分を省く
 - 「処理のための」→「処理の」
- 「の」を別の語に変える
 - 「処理のプログラム」→「処理するプログラム」

明確にする

文を明確にし，誤解を生まないようにする

悪い例：複数の対応関係が不明確

Table1 と Table2 に示した加算と乗算の表を見てください。

悪い点：対応関係が不明確

改善例：複数の対応関係を明確にした

加算の表（Table1）と乗算の表（Table2）を見てください。

複数の対応関係を明確にすることで誤解を生まなくなる

言外の意味 (1/2)

言外の意味とは

文章を読んでいると「文字としては書かれていないが、自然と心に浮かんでくる意味」がある。
これを 言外の意味 という。

例

薬品 A は、薬品 B とは反応しない

「薬品 B とは」とわざわざ書かれているため、
「A と B 以外の薬品が存在するのかも」と感じる

言外の意味 (2/2)

改善例

薬品 A は、薬品 B とは反応しない。それは薬品 B に含まれている成分が……だからである。

このように、薬品 A は薬品 B とは反応しないが、薬品 C とは反応する。なぜなら、薬品 C は薬品 B とは違い、……だからである。

読者に「疑問」や「不満」を感じさせないようにする必要がある

二重否定を避ける

二重否定は、誤解を生む可能性がある

二重否定の例

この公式で解が求められない2次方程式はない。

二重否定を避けることで、文がすっきりする

改善例

どんな2次方程式の解も、この公式で求められる。

さまざまな書き方が可能なので、前後の文脈や文章の流れを考えつつ書き換えてみるのが重要

この章のまとめ

読者に誤解を与えないために注意する点がある

- 文を短くする
- 「の」の数に注意する
- 明確な文を書く
- 言外の意味に注意する
- 二重否定に注意する

文を推敲するときには わざと意地悪な読み方をすることが大切.

誤解する可能性を少しでも減らした文にすることを心掛けよう.